

## 研究ノート

特別支援学校養護教諭の職務における  
特徴と課題に関する文献検討石原 愛<sup>1)</sup>, 伊丹 君和<sup>2)</sup>, 米田 照美<sup>2)</sup><sup>1)</sup> 滋賀県立大学大学院人間看護学研究科修士課程<sup>2)</sup> 滋賀県立大学人間看護学部

**要旨** 近年、特別支援学校に在籍する児童生徒数は増加傾向にある。それに伴い、特別支援教育の推進と特別支援学校の教員の専門性の向上が求められている。そのような中で、養護教諭は、児童生徒らの健康相談や健康診断などの学校保健活動を行う役割を担っている。そこで本研究は、文献検討により特別支援学校養護教諭の職務における特徴と課題を明らかにし、特別支援学校養護教諭に求められる専門性についての示唆を得ることを目的とした。39文献を分析し、文部科学省の定める養護教諭の9つの職務に分類し検討した。その結果、特別支援学校養護教諭は、児童生徒が障がいの特性による個人差が大きいことにより、保健指導・保健学習に関する職務の困難度が高いという特徴が見いだされた。さらに、支援を行うことへの困難度が高い知的障がいのある児童生徒への保健指導・保健学習の指導法や教材開発の必要性が明らかとなり、研究課題として取り組む必要性が示唆された。

**キーワード** 特別支援学校, 養護教諭, 職務, 文献検討

## I. 背景

特別支援学校とは、「障害のある幼児児童生徒に対し、幼稚園、小学校、中学校又は高等学校に準ずる教育を施すとともに、障がいによる学習上、または生活上の困難を克服し自立をはかるために必要な知識技能を授けることを目的とする学校」(文部科学省, 2020)である。

この特別支援学校に在籍する児童生徒数は年々増加傾向である。2000年は9万104人であったが、2018年の調査では14万3379人であった。児童生徒数は2000年の1563万5230人から2018年には1294万9757人に減少している。全国の児童生徒数は減少傾向にもかかわらず、特別支援学校に在籍する児童生徒数は増加傾向であるといえる(文部科学省, 2018)。

障がい児数の増加に伴い、障がいの重度・重複化、多様化も進んでおり、一層きめ細やかな支援が求められている(平成24年版障害者白書, 2012)。これらに対応するため、2005年に中央教育審議会は「特別支援教育を推進するための制度の在り方について」を答申した。そこで、学校教育は障がい者の自立と社会参加を見通した取り組みを含め、重要な役割を果たすことが求められた。つまり、障がいの重度・重複化、多様化に応じた教育をすることが求められた。

この答申に基づき2007年に学校教育法が改正された。

この法改正により、盲学校、聾学校、養護学校が、障がい種別を超えた特別支援学校に一本化され、学習障がい(LD)や注意欠如多動性障がい(ADHD)等の発達障がいのある児童生徒へのそれぞれの障がいに応じた教育についても規定された。また、特別支援学校において「さまざまな障がい種に対応することができる体制づくりや、学校間の連携などを一層進めていくことが重要である」(文部科学省, 2007)といわれており、特別支援教育の推進が求められている。

さらに、学校教育法第74条では、特別支援学校は一般校の要請に応じて障がいのある児童生徒に対しての助

Review of literature on characteristics and issues in the duties of special school nurses

Ai Ishihara<sup>1)</sup>, Kimiwa Itami<sup>2)</sup>, Terumi Yoneda<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup> Graduate School of Human Nursing, The University of Shiga Prefecture

<sup>2)</sup> School of Human Nursing, The University of Shiga Prefecture

2021年9月30日受付, 2022年1月17日受理

連絡先: 伊丹 君和

滋賀県立大学人間看護学部

住 所: 彦根市八坂町 2500

電 話: 0749-28-8650

F A X: 0749-28-9518

e-mail: k-itami@nurse.usp.ac.jp

言や援助を行うことが定められている。1999年3月の学習指導要領では、「障害のある児童若しくは生徒またはその保護者に対して教育相談を行うなど、各学校の教師の専門性や施設・設備を生かした地域における特殊教育に関する相談のセンターとしての役割を果たすよう努めること」と規定され（文部科学省，1999），特別支援学校教員の専門性の向上と特別支援学校のセンター的機能役割が期待されている。特別支援学校教員の専門性の向上は，特別支援学校養護教諭にも求められており，心と体の健康の視点を優先して子どもを捉える養護教諭は、「特別支援教育の推進にあたって，養護教諭は重要な役割を担っている」（飯沼，岡田，2007）といわれている。

一方で，養護教諭の職務は，特別支援学校では一般校と同じ職務である。その養護教諭の職務は9つある。①学校保健情報の把握に関すること，②保健指導・保健学習に関すること，③救急処置及び救急体制に関すること，④健康相談活動に関すること，⑤健康診断・健康相談に関すること，⑥学校環境衛生に関すること，⑦学校保健に関する各種計画・活動及びそれらの運営への参画等に関すること，⑧伝染病の予防に関すること，⑨保健室の運営に関すること（文部科学省，2005）である。しかし，障がいへの重度・重複化，多様化が進む特別支援学校において，職務の具体的な内容や方法は一般校よりも特別支援に関する専門性が求められると考えられる。松村，友定（2014）は，「特別支援学校の養護教諭の職務について知ることは，一般校における特別支援教育の推進や健康観察・健康相談や健康診断などの学校保健活動の進め方に関する養護教諭の役割について考える契機になる」と述べており，特別支援学校養護教諭の特徴的な職務について明らかにすることの必要性が示されている。

## II. 目的

本研究は，文献検討により特別支援学校養護教諭の職務における特徴と課題を明らかにし，特別支援学校養護教諭に求められる専門性についての示唆を得ることを目的とした。

## III. 用語の定義

特別支援学校の対象障がい種：本研究では，視覚障がい者，聴覚障がい者，知的障がい者，肢体不自由者または病弱者（身体虚弱者を含む。）とする。

養護教諭：本研究では，特別支援学校の養護教諭とし，勤務形態は限定しない。

職務：文部科学省の定める9つの職務とした。

## IV. 方法

2021年6月22日の時点で，「特別支援学校」「養護教諭」「職務」をキーワードとして，医学中央雑誌（web版）を用いて文献検索を行った。なお，研究対象は，学校教育法の改正があった2007～2020年に発表された原著論文とした。その結果，原著論文は3件であった。次に「特別支援学校」「養護教諭」をキーワードとして検索した結果，原著論文は67件であった。同様に，CiNii Articleを用いて「特別支援学校」「養護教諭」「職務」と検索した結果，5件であった。次に，「特別支援学校」「養護教諭」と検索した結果，71件であった。

その後，内容を吟味し，特別支援学校の養護教諭を対象としていない文献，重複している文献，文献検討，尺度開発論文を除外したところ，39件の文献が分析対象となった。抽出された文献を，研究方法別，養護教諭の9つの職務別に分類後，研究の年次推移と研究内容を整理した。その後，特別支援学校養護教諭の特徴と課題に焦点をあて，研究内容を精読し，明らかにされていることを整理し検討した。

## V. 結果

### 1. 研究方法別の分類（図1）

研究方法は，質問紙調査21件，インタビュー調査が7件，実践報告が9件，参加観察が2件であり，質問紙調査が最も多かった。

### 2. 養護教諭の職務別分類（図2）

分析対象とした文献について，養護教諭の9つの職務に基づいて分類した結果，①学校保健情報の把握に関すること4件，②保健指導・保健学習に関すること8件，③救急処置および救急体制に関すること0件，④健康相談活動に関すること2件，⑤健康診断・健康相談に関すること6件，⑥学校環境衛生に関すること0件，⑦学校保健に関する各種計画・活動およびそれらの運営への参画等に関すること0件，⑧伝染病の予防に関すること0件，⑨保健室の運営に関すること1件，⑩その他18件

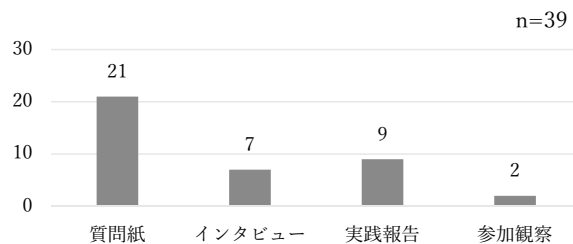


図1 研究方法別の分類

であった。その他の内訳は、医療的ケアに関する研究 10 件、連携・コーディネーター役割に関する研究 4 件、家族支援に関する研究 2 件、児童生徒への支援についての研究 1 件、視覚特別支援学校の養護教諭に関する研究が 1 件であった。

### 3. 研究の年次推移と研究内容 (図 3)

検索対象は 2007 年から 2020 年の 13 年間である。年次別研究数は、2007 年 1 件、2008 年 2 件、2009 年 3 件、2010 年 2 件、2011 年 2 件、2012 年 2 件、2013 年 2 件、2014 年 3 件、2015 年 2 件、2016 年 4 件、2017 年 4 件、2018 年 3 件、2019 年 6 件、2020 年 3 件であった。2019 年が最も多くなっており、次いで 2016 年、2017 年が多くなっていった。

2014 年以降、健康診断・健康相談に関する研究がみられるようになった。保健指導・保健学習に関する研究も 2015 年以降多くみられている。

以下、特別支援学校養護教諭の特徴と課題に焦点をあて、養護教諭の職務別に研究内容を精読し、明らかにされていることを整理した結果の詳細を示す。

#### 1) 学校保健情報の把握に関するこの研究 4 件

学校保健情報の把握に関するこの研究のうち 3 件が肢体不自由部門、1 件が知的部門であった。

荒原、田代 (2009) は、肢体不自由部門の健康管理についての質問紙調査を行った。その結果、144 校中 139 校学校が、独自の健康調査票を用いて児童生徒の健康状態の把握を行っていることを報告した。

鎌田、野田 (2012) は、肢体不自由部門の中高等部の生徒に関して、障がいと生活習慣についての質問紙調査を行った。その結果、「登校時間が長く、同一姿勢で過ごすことが多い」ことによる、筋緊張の亢進と脊柱側湾の進行が懸念されたと明らかになった。

また、平野、井上、野田 (2016) は、肢体不自由部門の栄養アセスメントについての質問紙調査を行った。身体測定は定期的に行われているが、健常児と同じ方法で栄養アセスメントをすることに困難を抱えていることを報告した。

川崎、中村 (2012) は、二分脊椎の児童に対する就学前後に行うアセスメントについての実践報告をした。その結果、医療的ケアが必要な児童に対し、ケア内容などを把握しその後のアセスメントに関わる計画を立てるなど、就学準備のために養護教諭のアセスメントが重要であると示唆された。

#### 2) 保健指導・保健学習に関する研究 8 件

保健指導・保健学習に関する研究のうち性教育に関する研究は 5 件、肥満指導に関する研究は 2 件、歯磨き指導に関する研究は 1 件であった。

性教育についての研究は、水内、山田 (2010)、秋月、上村、江口、堤 (2015)、河野、栗原 (2017)、細川ら (2019)、伊織 (2019) が行っていた。その中で、性教育が実施困難である理由として、「教材・資料が少ない」「指導時間の確保に関する課題」という教育体制の問題や、「教師が多忙である」「教員の指導への意識や技術の差」という教員の課題、「障がいの程度と理解度の幅の広さ」という障がいによる指導への困難さがあることが明らかになっていた (表 1)。

続いて、肥満指導に関する研究では、鈴木 (2017) と岩松、三浦 (2017) が実践報告をした。その結果、学校関係者と医療関係者の連携や、児童だけでなく、保護者に対する支援を行うことで、肥満改善がみられたと報告した。

また、池川、菊池 (2018) は、知的障がい・発達障がいのある高

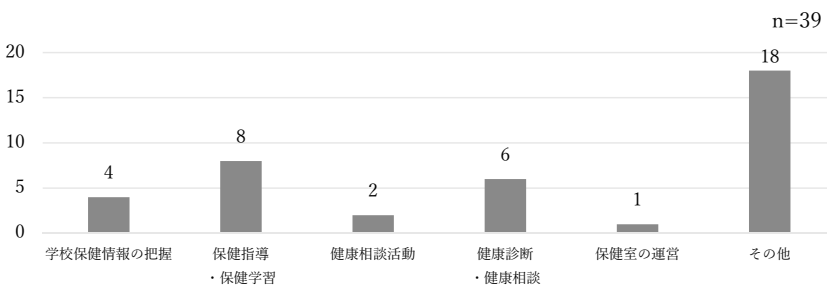


図 2 養護教諭の職務別分類

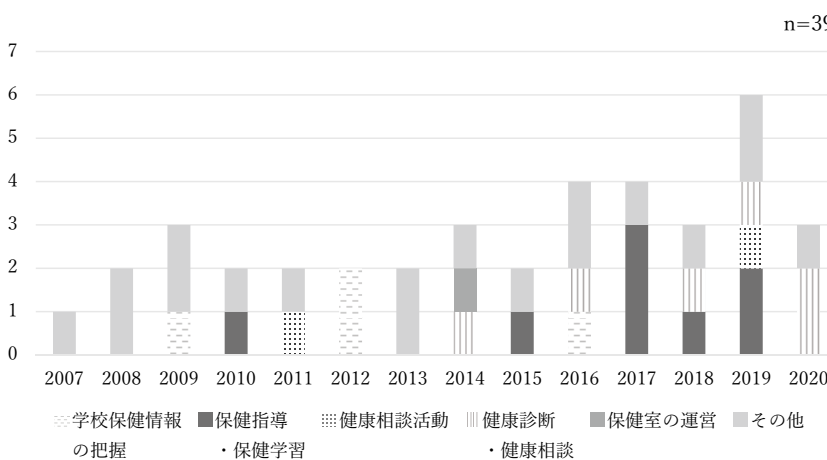


図 3 研究の年次推移と研究内容

等部の生徒に対する効果的な歯みがき指導に関する調査を行った。養護教諭は、生徒の自己肯定感を育む関わりをして、歯みがき行為を快く・自主的に行えるような指導を心掛けていたことを報告していた。

### 3) 健康相談活動に関する研究 2 件

長谷高 (2011) は、知的障がい・発達障がいのある特別支援学校特有の教育相談の実態や独自性に関する実践報告を行った。相談内容は心理的内容が多く、高等部の生徒からの相談が多かった。また、保護者からの相談対応も行っていると報告された。

淵上ら (2019) は、軽度知的障がいのある高等部の生徒のメンタルヘルスに関する質問紙調査を行った。その結果、「情緒不安定」「不登校・登校しぶり」「心氣的訴え」の生徒の割合が多いことなどが明らかになり、生徒や保護者の心理的な相談・支援先は担任に次いで養護教諭が多く、担任や養護教諭の負担が大きいことが示唆された。

### 4) 健康診断・健康相談に関する研究 6 件

健康診断・健康相談に関する研究のうち、視力検査に関するものが 2 件、歯科検診に関するものが 1 件、学校

医検診に関するものが 1 件、事前指導に関するものが 1 件、全般に関するものが 1 件であった。健康診断・健康相談に関する研究において、養護教諭の行っている取り組みを表 2 に示した。

視力検査に関する研究では、林、星川 (2016) は、香川県特別支援学校の視力検査の現状について調査した。その結果、発達年齢に合わせた検査法の選択、恐怖心の軽減、担任と協力した事前指導、検査に集中できる環境づくりなどの配慮が行われていた。また、林、星川 (2018) は、香川県内の特別支援学校の視力検査の現状を調査した後、視力検査マニュアル使用前後の視力評価法の変化と効果についてアンケート調査を行った。その結果、マニュアルの導入により、「今まで学校独自の方法であったが、誰もが安心して検査に取り込める」ようになり、適切な検査方法のマニュアルの提供や指導を行うことで特別支援学校での視機能検査が可能になると報告された。

一方、藤井、池永、津島 (2014) は、歯科検診時において、教職員や学校歯科医と連携しており、児童生徒等に合わせたさまざまなアプローチ手法を行っていることが明らかになった。

藤井、矢野、橋口、高木 (2019) は、A 特別支援学校の実践場面をとおして、健康診断の現状について調査した。その結果、具体的な検査方法の工夫や環境の配慮、児童生徒への個別対応を行っている現状が明らかになった。また、担任教諭や外部との連絡調整を行い児童生徒等への有効な配慮をしていた。

藤沼、野田 (2020a) は知的障がい特別支援学校小学部では、器具を使用する心電図検査、耳鼻科検診、歯科検診は難易度が高いため「模擬練習」などで「雰囲気を経験させる」などの工夫をしていることが報告された。加えて、藤沼、野田 (2020b) は、知的障がい特別支援学校における定期健康診断の事前指導の現状について調査を行った。その結果、聴力検査・視力検査の困難度が高く、身長測定・体重測定・内科健診・眼科健診の困難度は低かった。その理由は恐怖心や知的な理解を要するためであった。

### 5) 保健室の運営に関する研究 1 件

石井、三神山、杉田 (2014) は、附属特別支援学校の保健室へ参加観察研究を行った。その結果、来室理由はけが・体調不良・慢性疾患の管理であった。また、養護教諭と担任は児童生徒に対する情報

表 1 性教育についての保健指導・保健学習に関する研究から抽出した課題

保健指導・保健学習への課題		対象の文献
教育体制の課題	教材・資料が少ない	水内、山田 (2010), 河野、栗原 (2017), 伊藤 (2019)
	指導時間の確保に関する課題	水内、山田 (2010), 秋月、上村、江口、堤 (2015),
教員の課題	教師が多忙である	水内、山田 (2010)
	教員の指導への意識や技術の差	水内、山田 (2010), 秋月、上村、江口、堤 (2015), 河野、栗原 (2017), 伊藤 (2019)
障がいによる困難	障がいの程度と理解度の幅の広さ	水内、山田 (2010), 秋月、上村、江口、堤 (2015), 河野、栗原 (2017), 伊藤 (2019)

表 2 健康診断・健康相談に関する研究から抽出した取り組み

取り組み	対象の文献
環境づくり	林、星川 (2016), 野田、藤沼 (2020a)
恐怖心の軽減	林、星川 (2016), 野田、藤沼 (2020a), 藤井、矢野、橋口、高木 (2019)
児童生徒に合わせた検査方法	藤井、矢野、橋口、高木 (2019)
担任や学校医との連携	藤井、矢野、橋口、高木 (2019)
事前練習	林、星川 (2016), 藤井、矢野、橋口、高木 (2019) 野田、藤沼 (2020a)

共有を密に行われていたと報告した。

#### 6) その他 18 件

その他の研究の内訳は、医療的ケアに関する研究 10 件、連携・コーディネーター役割に関する研究 4 件、家族支援に関する研究 2 件、児童生徒への支援に関する研究 1 件、視覚特別支援学校の養護教諭に関する研究 1 件であった。

遠藤、及川 (2007) は、医療的ケア児の実態と養護教諭の関わりおよび課題について質問紙調査を行った。その結果、養護教諭は、健康管理、医療的ケアの実施、保管・管理、看護師の補助、医療的ケアに関する研修受講を行っていたと明らかにした。

平野、石黒、筒井、太田 (2008) は、九州・沖縄の肢体不自由部門の医療的ケアの現状と課題について質問紙調査を行った。その結果、約 8 割の養護教諭が看護師免許を保持しているが、実際に医療的ケアに携わっている結果は 1 例もないことが明らかになった。

石黒、岡田 (2013) は、医療的ケアに関する養護教諭の意識調査を行った。その結果、養護教諭は、学外への医療機関や学校医とのコーディネーションを担っているため、担任教諭からは医療的ケア実施主体者としての役割は求められていない可能性が示唆された。また、斉藤、安井 (2018) は、肢体不自由部門における医療的ケアの捉え方について、教師・養護教諭・看護師のそれぞれにインタビュー調査を行った。三者とも「児童の教育の機会を守る」という共通の目標をもっていることが明らかになった。

次に、養護教諭が実施する医療的ケア技術に関する研究では、小河、山田、津島 (2015) が医療的ケア技術について、養護教諭の技術習得ニーズに関して調査した。その結果、養護教諭の技術習得ニーズは、「感染予防」「安全管理」医療的ケア技術の「トラブルと対応」の項目が高かった。

市之瀬ら (2017) は、医療的ケアに関する養護教諭の役割と看護大学系からの支援の実態について調査した。その結果、医療的ケアを実施している養護教諭は 13.3% であり、口腔・鼻腔内吸引と経管栄養の実施をしていた者が最も多かった。

医療的ケアに関する学校看護師との連携についての研究では、郷間、池田、永井、武藤、牛尾 (2009) が、肢体部門における養護教諭と看護師の役割に関する質問紙調査を行った。その結果、医療的ケアを含んだ学校の職務に関して、看護師は医療的ケアに関する包括的な役割を行い、養護教諭は学校保健全体のコーディネーターを担うことが、それぞれの専門性を発揮できると示唆していた。市江、立松 (2013) は、教員・養護教諭・看護師の医療的ケア実施の実態について調査した。その結果、「健康状態の把握」「保護者・教職員からの相談や助言」

などの経験が多かった。また、高野 (2016) は、医療的ケアに関する養護教諭と看護師の実態と連携について調査した。その結果、養護教諭と看護師の待機場所が同室の場合は情報共有などが密に行われていた。しかし、両者が別室の場合は連携に困難を感じていることが報告された。さらに、菅野、西方、丸山、内 (2019) は、医療的ケア児に携わる、養護教諭と看護師の連携・協働が困難になる要因と、養護教諭の看護師への配慮についてインタビュー調査をした。その結果、看護師は特別支援学校での役割を十分に把握していないことや、養護教諭は看護師と情報共有がしにくいことなどが原因で、養護教諭と看護師の連携・協働が困難であることが報告された。

連携・コーディネーション役割についての研究では、岡本、津島 (2011) は、養護教諭のコーディネーション役割の必要性と研修で身につけたい能力の意識調査を行った。9 割以上の養護教諭が、養護教諭のコーディネーション役割が重要だと示した。また、養護教諭のコーディネーション能力育成の研修内容に対するニーズは、緊急時の危機管理方法、障がいのある児童生徒等の成長・発達の理解などが 8 割以上であり、研修プログラム内容への重要性の認識があることが報告された。河野 (2016) は附属特別支援学校知的障がい部門における養護教諭の連携について実践報告を行った。その結果、校内での連携の他に、大学や他機関との連携を行っていた。近藤、津島 (2014) は特別支援学校が多職種配置と養護教諭の役割について調査した。特別支援学校では、理学療法士や作業療法士などの専門職の配置は進んでおらず、多くの養護教諭がコーディネーターとしての役割が大切だと捉えていることを報告していた。

さらに、具体的な場面での連携に関する研究があった。中村 (2010) は、重症心身障がい生徒のプール授業でのコーディネーション過程の分析を実践報告した。重度の障がいや疾病がある場合はとくに、教育と医療の両面を理解している養護教諭がチームコーディネーターとなることにより効果的なチームアプローチができることが報告された。

家族支援に関する研究では、中下、佐藤、大野 (2008) が、知的特別支援学校の養護教諭 14 人にインタビュー調査を行った。その結果、養護教諭は、親・担任から情報収集を行い、家族成員の健康状態や家族関係の変化もアセスメントし、家族と家族成員の健康管理力、家族の関係性と問題対処力、社会資源の活用力等を高めていた。加えて、中下、佐藤、大野 (2009) は、特別支援学校 A での養護教諭が行った家族支援方法の特徴について実証的な研究を行った。その結果、家族支援の目的は、「家族が行う子の健康管理に対する支援」「子の学校生活に対する家族への支援」などがあり、そのために「把握する」「情報提供する」「つなげる」などの支援行為を行

うことが明らかになった。

丹所 (2019) は、視覚特別支援学校の養護教諭に求められる役割と資質能力についてインタビュー調査を行った。その結果、視覚生理・病理・心理に関する知識技能と、視覚障がい者や盲学校特有の文化・コミュニケーションのあり方等への理解と配慮が必要であると報告された。

川崎, 升岡, 柊中 (2020) は、特別支援学校養護教諭が認知する児童生徒の支援内容と方法および課題について質的記述的研究を行った。その結果、個別性を理解し、社会での生活につながるような支援をしていた。その中で、「特別支援学校の養護教諭として何をすればいいかわからない不安を抱える」などの不安も明らかにされた。

## VI. 考 察

### 1. 特別支援学校養護教諭の職務における特徴と課題に関する研究の動向について

研究方法別の分類では、質問紙調査が21件と最も多く、インタビュー調査は7件と少なかった。質問紙調査は設定された質問項目であり、特別支援学校養護教諭の具体的な思いや考えなどについて、さらに研究を進める必要があると考える。

養護教諭の職務は、①学校保健情報の把握に関すること、②保健指導・保健学習に関すること、③救急処置および救急体制に関すること、④健康相談活動に関すること、⑤健康診断・健康相談に関すること、⑥学校環境衛生に関すること、⑦学校保健に関する各種計画・活動およびそれらの運営への参画等に関すること、⑧伝染病の予防に関すること、⑨保健室の運営に関することの9つある。養護教諭の職務別に研究内容を整理した結果、特別支援学校養護教諭の職務のうち、救急処置および救急体制に関すること、学校環境衛生に関すること、学校保健に関する各種計画・活動およびそれらの運営への参画等に関すること、伝染病の予防に関することの研究はされていなかった。また、養護教諭の職務に含まれない医療的ケアに関する研究などが18件あり、特別支援学校養護教諭の職務として位置づけられていないものの、実際に行われている職務があることを示唆された。このことから、特別支援学校養護教諭には特有の職務があると考えられた。

また、川崎ら (2020) は、特別支援学校では児童生徒の年齢を基準とした発達段階の考え方や、問診を中心とした健康観察と保健指導の技術が特別支援学校では通用しないなどと報告していた。つまり、一般校の経験に加えて、特別支援学校特有の考え方や支援技術が必要と考えられる。しかし、特別支援学校と一般校の違いに焦点を当てた研究は少なく、特別支援学校養護教諭の特有の

職務については十分に明らかにされていない現状にある。

特別支援学校養護教諭の特徴と課題に焦点を当て、養護教諭の職務別に研究内容を整理した結果、健康診断・健康相談に関する研究は6件と2番目に多かった。健康診断・健康相談に関して、養護教諭はさまざまな工夫や配慮を行っていた。恐怖心の軽減や環境づくり、児童生徒等に合わせた検査法を行っていることは、児童生徒の障がい特性に対する配慮であり、特別支援学校における特徴的な取り組みであると考えられる。

職務別の分類の結果、保健指導・保健学習に関する職務の研究は8件と最も多かった。その中でも、知的障がいのある児童生徒についての研究が多数を占めていた。知的障がいを主体とする特別支援学校の多くの児童生徒は、発達障がいや身体的疾患等が重複しているケースが多く児童生徒の特性が多岐にわたり、また精神発達段階が個々によって異なるため理解力にも個人差が大きいといわれている (河野, 栗原, 2017)。その障がい特性があるため、知的障がいのある児童生徒への保健指導・保健学習に関する困難度が高く、研究も多くされていると考える。保健指導・保健学習を行う際には、一人ひとりの発達課題や障がいの特性に合わせた指導法が必要であると考えられる。また、知的障がいのある児童生徒は、話の内容を理解したり、自分の気持ちや考えを表現することが難しく、コミュニケーションが上手くとれないという特徴がある (秋月ら, 2015)。このことから、知的障がいのある児童生徒に対して保健指導・保健学習をすることは、理解力の乏しさや児童生徒の理解力の個人差が大きいことが困難度が高い要因と考えられる。このように、特別支援学校養護教諭は児童生徒の障がいの特性による個人差が大きいことにより、とくに保健指導・保健学習を行ううえでの困難度は高いという特徴があることが明らかとなった。さらに、児童生徒に応じた指導方法は確立しておらず、児童生徒の特性に応じた保健指導・保健学習の指導法や教材開発の確立が必要であると考えられる。また、児童生徒に応じた保健指導・保健学習をするために、児童生徒の担任教諭と養護教諭が連携した保健指導・保健学習をすることに課題があると考えられる。

さらに、性教育に関する研究は5件であった。養護教諭は性に関して、「性に関する被害者や加害者にならないように、知識や態度、能力を身につけさせたい」などの理由から指導の必要性を感じている (秋月ら, 2015; 水内ら, 2010)。飯沼, 岡田 (2007) は、特別支援学校の性教育について「児童・生徒の障害の状態や程度、発達段階に応じて、障害を克服し、共に生きる社会の一員としての自覚を高め、社会的自立を促すようにすることが基本的な視点である」と述べている。児童生徒の将来を見通し、社会的な自立のためにも性教育をはじめとす



る保健指導。保健学習をする必要があると考える。しかし、教材が少ないことや障がいの個人差があること、性に関する指導の系統性がないことなどによって指導することに困難が生じている（秋月ら、2015；伊織、2019；河野、栗原、2017；水内、山田、2010）。そのため、特別支援学校での保健指導・保健学習における研究に課題があると考えられ、具体的には、児童生徒の発達段階や障がい特性に応じて個別の対応ができるような教材開発や指導法の確立について課題があることが考えられた。

また、肥満指導に関する実践報告（岩松、三浦、2017；鈴木、2017）では、担任教諭と養護教諭、栄養教諭、医療機関が連携して、対象児童生徒とその保護者に対して肥満指導を行うことで体重や体脂肪率の減少がみられたと報告していた。岩松、三浦（2017）は、より効果的な肥満改善のための指導プログラムの開発や校内支援チーム構築のシステムづくりなどが課題であると述べており、保健指導のチーム支援による、より効果的な指導のあり方への課題があると考えられた。

以上より、特別支援学校養護教諭は、児童生徒の障がいの特性による個人差が大きいことにより、保健指導・保健学習に関する職務の困難度が高いという特徴が見いだされた。さらに、支援を行うことへの困難度が高い知的障がいのある児童生徒への保健指導・保健学習の指導法や教材開発の必要性が明らかとなった。

## 2. 特別支援学校養護教諭に求められる専門性への課題

養護教諭の免許状は、専修、一種、二種と3種類あるが、校種による免許の区別がない。対象の研究を特別支援学校養護教諭としたが、一般校の養護教諭と比較した研究はなかった。養護教諭の免許状をもつことは、小学校や中学校、高等学校、特別支援学校など、どの校種にも働く可能性があるということにもかかわらず、養護教諭の養成段階では特別支援学校での勤務を想定した教育は受けていない（富田、2011）。一般校とは異なる、特別支援学校特有の方法や技術を知ることは、どの校種にも対応できる養護教諭になる一助になると考える。そのため、一般校の養護教諭と特別支援学校の養護教諭を比較する必要があると考える。

今回職務内容別に研究を分類したところ、さまざまな課題が発見された。まず、職務に分類されない研究が多いことから、特別支援学校養護教諭には特有の職務があると考えられた。また、知的障がいのある児童生徒に対する保健指導・保健学習を行うことの困難度が高いと明らかにされていた。しかし、知的障がいのある児童生徒に対して、どのような指導を行い、困難やその困難への対処をしているかに関する研究は少なく、さらなる課題があると考えられる。

以上のことから、養護教諭の職務において特別支援学校と一般校の違いに焦点を当てた研究は少なく、特別支

援学校養護教諭の特有の職務の内容を明らかにする必要性が示唆された。さらに、支援を行うことへの困難度が高い知的障がいのある児童生徒に対する保健指導・保健学習における特別支援学校養護教諭の専門性について具体的な内容を明らかにする必要がある。

## Ⅶ. 結 論

本研究では、特別支援学校養護教諭の職務における特徴と課題を明らかにし、特別支援学校養護教諭の専門性についての示唆を得ることを目的に文献検討を行った。

1. 養護教諭の9つの職務のうち、学校保健情報の把握に関すること、保健指導・保健学習に関すること、健康相談活動に関すること、健康診断・健康相談に関すること、保健室の運営に関することについての研究はされていたが、救急処置および救急体制に関すること、学校環境衛生に関すること、学校保健に関する各種計画・活動およびそれらの運営への参画等に関すること、伝染病の予防に関することの研究はされていなかった。
2. 特別支援学校養護教諭は、対象が障がいの特性による個人差が大きいことにより、保健指導・保健学習に関する職務の困難度が高いという特徴が見いだされた。
3. 支援を行うことへの困難度が高い知的障がいのある児童生徒への保健指導・保健学習の指導法や教材開発の必要性が明らかとなり、研究課題として取り組む必要性が示唆された。

## 文 献

- ・秋月百合、上村ともみ、江口ひかり、堤菜々子（2015）。特別な支援を要する児童生徒への性に関する指導：養護教諭が抱く困難や課題。熊本大学教育学部紀要，64，253-258。
- ・荒原美由紀、田代千恵美（2009）。肢体不自由児特別支援学校の健康管理の調査。小児保健研究，68（6），692-699。
- ・中央教育審議会（2005）。特別支援教育を推進するための制度の在り方について。 [https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/\\_icsFiles/fieldfile/2017/09/22/1212704\\_001.pdf](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/_icsFiles/fieldfile/2017/09/22/1212704_001.pdf)（2022.1 閲覧）
- ・遠藤芳子、及川明奈（2007）。医療的ケアを必要とする児童生徒の実態と養護教諭の関わり及び課題。北日本看護学会誌，10（1），13-24。
- ・湖上真裕美、橋本創一、林安紀子、小林正幸、李受眞、

- 三浦巧也, 仲野栞, 尾高邦生, 杉岡千宏, 渡邊貴裕 (2019). 特別支援学校高等部の軽度知的障害生徒におけるメンタルヘルスに関する全国調査: 特別支援学校におけるスクールカウンセリングの検討. 東京学芸大学紀要. 総合教育科学系, 70 (2), 177-183.
- ・藤井美帆, 橋口文香, 高木富士男, 矢野洋子 (2019). 特別支援学校における学校健康診断の現状と養護教諭に求められるもの 知的障がい、病弱を主とする A 特別支援学校の実践場面を通して. 九州女子大学紀要, 55 (2), 197-212.
  - ・藤井弓加, 池永理恵子, 津島ひろ江 (2014). 学校歯科検診における自閉的傾向のある児童生徒への養護教諭の対応 感覚過敏に対するアプローチを中心に. 教育保健研究, 18, 1-9.
  - ・藤沼小智子, 野田智子 (2020a). 知的障害特別支援学校における定期健康診断事前指導の現状. 学校保健研究, 62 (1), 52-62.
  - ・藤沼小智子, 野田智子 (2020b). 知的障害特別支援学校における学校医検診の工夫と配慮. 埼玉医科大学看護学科紀要, 13 (1), 9-19.
  - ・郷間英世, 池田友美, 永井利三郎, 武藤葉子, 牛尾禮子 (2009). 肢体不自由養護学校における看護師と養護教諭の役割に関する調査. 小児保健研究, 74, 74-80.
  - ・長谷高あけみ (2011). 特別支援学校における養護教諭による相談活動. 鳥取大学教育研究論集, 1, 103-108.
  - ・林京子, 星川じゅん (2016). 香川県内特別支援学校における視力測定の実況. 日本視能訓練士協会誌, 45, 243-251.
  - ・林京子, 星川じゅん (2018). 香川県内で統一した特別支援学校における視力検査マニュアル作成による視力評価法の変化. 日本視能訓練士協会誌, 47 (0), 131-140.
  - ・平野恵利子, 井上寛隆, 野田智子 (2016). 特別支援学校肢体不自由部門の栄養アセスメントの現状と課題. 埼玉医科大学看護学科紀要, 9 (1), 1-9.
  - ・平野里枝, 石黒栄亀, 大田恵子, 筒井康子 (2008). 九州・沖縄の肢体不自由特別支援学校における医療的ケアの現状と課題. 九州女子大学紀要 自然科学編, 45 (2), 1-19.
  - ・細川知子, 井出智博, 鎌塚優子, 松尾由希子, 玉井紀子, 山元薫 (2019). 特別支援学校における性的マイノリティ児童生徒への対応と性に関する指導の実情: 静岡県の養護教諭への調査を通して. 静岡大学教育実践総合センター紀要, 29, 1-7.
  - ・飯沼淳子, 岡田加奈子 (2007). 養護教諭のための特別支援教育ハンドブック (第1版), pp.184, 東京: 大修館書店.
  - ・市江和子, 立松生陽 (2013). 特別支援学校における教諭・養護教諭・看護師の医療的ケアに関する課題の検討. せいいい看護学会誌, 14 (1), 6-11.
  - ・市之瀬知里, 勝田仁美, 二宮啓子, 岡永真由美, 内正子, 山本陽子 (2017). 新制度後における特別支援学校に勤務する養護教諭の医療的ケアに対する役割と看護系大学からの支援の実態. 神戸市看護大学紀要, 21, 21-26.
  - ・池川典子, 菊池美奈子 (2018). 特別支援学校 (知的障がい) 高等部における効果的な個別歯磨き指導についての一考察. 養護実践学研究, 1 (1), 79-87.
  - ・石黒栄亀, 岡田愛美 (2013). 特別支援教育における医療的ケアに関する意識調査. 医療の質・安全学会誌, 8 (3), 201-205.
  - ・石井夕貴, 三神山英実, 杉田克生 (2014). 特別支援学校における保健室での実践的指導について. 千葉大学教育学部研究紀要, 62, 13-16.
  - ・伊織光恵 (2019). 特別支援学校の養護教諭が知的障害のある女子に行う初経教育 教育内容と担任教諭及び保護者との関わり. 母性衛生, 59 (4), 922-930.
  - ・岩松雅文, 三浦光哉 (2017). 知的障害児に対するチーム支援による肥満改善の効果. 発達障害研究, 39 (3), 288-296.
  - ・鎌田尚子, 野田智子 (2012). 特別支援学校肢体不自由部門に通学する中高等部生の障害と生活習慣の実態. The Kitakanto Medical Journal, 62 (3), 261-270.
  - ・菅野由美子, 西方弥生, 丸山有希, 内正子 (2019). 特別支援学校における医療的ケアに関する養護教諭と看護師との連携・協働が困難となる要因と養護教諭の配慮・工夫-養護教諭のインタビューから効果的な連携・協働を考える-. 神戸女子大学看護学部紀要, 4, 19-30.
  - ・河野恵 (2016). 附属学校園における養護教諭の連携の在り方: 知的特別支援学校における実践. 佐賀大学教育実践研究, 33, 519-525.
  - ・河野恵, 栗原淳 (2017). 附属特別支援学校における養護教諭の保健教育: 知的障害の性に関する教育の実態と今後の課題. 佐賀大学教育実践研究, 34, 507-514.
  - ・川崎裕美, 升岡優子, 柗中智恵子 (2020). 特別支援学校に勤務する養護教諭が認知する児童生徒の支援内容と方法および課題. 日本遺伝看護学会誌, 19 (1), 62-71.
  - ・川崎裕美, 中村雅子 (2012). 特別支援学校養護教諭の就学前後に行うアセスメント 二分脊椎事例から. 福祉健康科学研究, 7 (1), 119-124.
  - ・近藤福美, 津島ひろ江 (2014). 特別支援学校におけ



- る多職種配置と養護教諭の役割. 教育保健研究, 18, 45-53.
- ・松村淳子, 友定保博 (2014). 知的障害を主とする特別支援学校における養護教諭の職務. 研究論叢. 第3部 芸術・体育・教育・心理, 64, 149-160.
  - ・水内豊和, 山田晃生 (2010). 特別支援学校における性教育に対する意識と実態—国立大学法人の附属特別支援学校の教諭ならびに養護教諭を対象とした質問紙調査から—. 人間発達科学部紀要, 5 (1), 49-64.
  - ・文部科学省 (2020). 特別支援学校の現状. [https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/tokubetu/002.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/002.htm) (2022.1 閲覧)
  - ・文部科学省 (2018). 特別支援教育資料(平成29年度)【第1部 集計編】. [https://www.mext.go.jp/content/20200428-mxt\\_tokubetu01-000004454.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20200428-mxt_tokubetu01-000004454.pdf) (2022.1 閲覧)
  - ・文部科学省 (2017). 平成27年度特別支援学校のセンタース機能の取組に関する状況調査について. 初等中等教育特別支援教育課. [https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/tokubetu/mmateria/\\_icsFiles/afildfile/2017/03/14/1383107.pdf](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/mmateria/_icsFiles/afildfile/2017/03/14/1383107.pdf) (2022.1 閲覧)
  - ・文部科学省 (2007). 特別支援教育の推進について(通知). [https://warp.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/11402417/www.mext.go.jp/b\\_menu/hakusho/nc/07050101.htm](https://warp.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/11402417/www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/07050101.htm) (2022.1 閲覧)
  - ・文部科学省 (2005). 教職員配置等の在り方に関する調査研究協力者会議(第3回)配付資料[参考資料7] (mext.go.jp) [https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/shotou/029/shiryo/05070501/s007.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/029/shiryo/05070501/s007.htm) (2022.1 閲覧)
  - ・文部科学省 (1999). 盲学校, 聾学校及び養護学校小・中・高部学習指導要領. [https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/cs/1320718.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/cs/1320718.htm) (2022.1 閲覧)
  - ・内閣府 (2012). 平成24年版障害者白書, 第3章 社会参加へ向けた自立の基盤づくり 1\_1\_01.pdf (cao.go.jp) (2022.1 閲覧)
  - ・中村雅子 (2010). 重症心身障害生徒のプール授業を通して, 養護教諭の行ったコーディネーション過程の分析. 教育保健研究, (16) 59-63.
  - ・中下富子, 佐藤由美, 大野綾子 (2008). 養護教諭が行った支援行為とその意図—知的障害児の家族ケア能力を高めるために—. 思春期学, 26 (2), 227-240.
  - ・中下富子, 佐藤由美, 大野綾子 (2009). 特別支援学校における養護教諭がおこなう家族支援方法. 家族看護学研究, 14 (3), 41-48.
  - ・小河孝則, 山田景子, 津島ひろ江 (2015). 医療的ケアを必要とする子どもへのケア技術習得に関する養護教諭のニーズ調査—全国肢体不自由特別支援学校を中心に—. 小児保健研究, 74 (2), 214-222.
  - ・岡本啓子, 津島ひろ江 (2011). 養護教諭のコーディネーション能力育成の研修プログラムニーズ—全国特別支援学校養護教諭への意識調査から—. 学校保健研究, 53 (3), 250-260.
  - ・斉藤有香, 安井友康 (2018). 肢体不自由特別支援学校における医療的ケアの捉え方: 教師・養護教諭・看護師のインタビュー調査から. 北海道教育大学紀要, 教育科学編, 68 (2), 173-181.
  - ・鈴木みちる (2017). 重複障害のある生徒への肥満指導の実践. ヒューマンケア研究学会誌, 8 (2), 21-25.
  - ・高野政子 (2016). 特別支援学校における看護師と養護教諭の医療的ケアの実態と連携. 育療, (59), 8-15.
  - ・丹所忍 (2019). 視覚特別支援学校養護教諭に求められる役割と資質能力—勤務歴30年の元養護教諭へのインタビューを中心に—. 兵庫教育大学学校教育学研究, (32), 167-172.
  - ・富田郁子 (2011). 特別支援学校における養護教諭の役割. 小児看護, 34 (2), 194-198.